

沙羅の樹文庫だより



田んぼアート（那須塩原で見つけました！）

これからの催し物 10月～12月

秋の夜長のおはなし会(大きい人向け)

♡今夜 10月19日(土)午後5:00～7:00

ゲスト：吉川仲子さん(朗読：藤沢周平の短篇) & 菊池とも子、大澤里子さん(まちだ語り手の会)

& おはなし沙羅会員

秋の子どものおはなし会

10月20日(日)午前10:30～11:30

クリスマスおたのしみ会 & 納会

12月22日(日)午前10:30～12:00

みんなで1年の無事を感謝しましょう。

❖今後の開館スケジュール❖

◆10月は通常 19日(土)、20日(日)

◆11月は通常 16日(土)、17日(日)

◆12月は変則 21日(土)、22日(日)

◆1月は通常 18日(土) 19日(日)

※文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時

♥毎月開館日(日)「子どものための小さなおはなし会(午前10:30～11:00)」があります♥

❖おはなし沙羅の勉強会❖

毎月開館日(土) 11:00～13:00

文庫あれこれ◆前の家の古い小屋が解体されて、大島が現れました。いつもと同じやさしい形で静かに海に浮かんでいます。台風と縁がなかったかのように。亡くなった方、行方がまだわからない方、被害にあわれた方々にお悔やみ、励ましの言葉が見つかりません。◆不謹慎をお許しただいていつものように身近な出来事を書いてみますね。◆先月下旬、仲の良い友人3人で、那須塩原で、ある人の語りを聴きがてら2泊してきました。冒頭の田んぼアートですが、田んぼに絵が描いてあるわけではありません。田植えの時に種類の違うお米の苗を植えるのです。こんなふうには稲穂の全景になるように。全国的なコンテストもあるようです。知らなかったのは私だけだったりして…。◆話かわって。数日前、台風の来た日の午前、耳鼻科で仮の補聴器をつけての帰り、終点駅でバスを降りました。目の前に乳母車を小さくしたような四角いカートに荷物をたくさん乗せたお年寄り(私より6、7歳は上とおぼしき)が一段高いバス停から道路へ降りようとしていました。おろしましょうか、と声をかけました。返ってきた第一声が、大っ嫌い、でした。はじめ、意味がわからなかったのですが、その人はおせっかいされることが極度にいやだったようです。浅はかな自分にちょっとしよげました。失敗失敗！◆取りあえず古希となりましたが、心よき老人になれますか…。◆Nさんのお世話で、先月プリンターを変え、今月はパソコンと受話器を買い換えました。高機能のパソコンだそうです、使いこなすには中々で、今回の文庫便り、何とかできましたが今までと勝手が違うので苦労しました。◆芸術の秋ですね。明日、明後日は、伊東市でも、いろいろな催しがあるようです。文庫のおはなし会、お客さんあるかなあ？ みんな一生懸命練習しています。お時間のある方はどうぞ、いらしてくださいね。◆今年もあと2か月余、心おきなく次の年を迎えたいものですが、2か月で何ができるかしら？ 急に秋が深まり、夜も更けると寒いです。みなさん、健康第一ですよ。(西村)

沙羅の樹文庫 伊東市大室高原7-122

0557-51-3737

のびのびと
ただのびのびと
のびのびと
楽しいね。
思ってみたら楽しいね。

『明日のかるた』(倉本三津留)より

2013年10月に読んだ本についての感想

2013年10月17日

By [森林浴](#)

『脱グローバル論』 内田樹、中島岳志、平松邦夫、イケダハヤト、小田嶋隆、高木新平、平川克美著 講談社刊 2013年6月第1刷

この本は昨年の7月から今年の2月末までの間に開かれた4回のシンポジウムの記録で、主役は内田樹、中島岳志、平松邦夫というようなグローバル化に反対する人たち。グローバル化とは現在安倍政権が米国その他の諸国と交渉真最中のTPPを進めるとか、楽天の三木谷社長やユニクロの柳井社長のように会社内の公用語を英語にするというような世の流れと考えると、反対派の主張は1ページ目の「はじめに」で内田樹が要領よく纏めている。私が驚いたのは本の趣旨とやや外れるのだが、第2回シンポジウム「おじさんたちと若者たちとの対話」に登場するイケダハヤトという27歳の若者の発言（98ページ）で、「夫婦2人で1年に200万円ぐらい現金収入があれば、賃貸物件借りて、税金も払って、幸せに生きていけることがわかったんですよね。」とある。低成長で若年層には厳しい日本にはこんな若者が生れてきているのだ。開き直ったといえばそれまでだが、何か軽いショックを受けた。中島岳志の「秋葉原事件—無差別殺人事件はなぜ起きたか（242頁）—（派遣労働者だった加藤智大が秋葉原の街頭で起こした衝撃的な殺人事件は乾ききった社会の中で人間関係

を喪失した青年の孤独な自己回復の試み）のところも面白かった。

『石牟礼道子—魂の言葉、いのちの海』 渡辺京二ほか多数著 河出書房新社刊

2013年4月第1刷

「KAWADE 道の手帖シリーズ」（親鸞・空海・大杉栄から横尾忠則まで40人近くについて1人1冊）のうちの1巻。最初に石牟礼道子自身のエッセイがあるが、ほかは、彼女も参加している座談会の記録、あとは渡辺京二、池澤夏樹、町田康、などのエッセイが並ぶ。肝心の「苦界浄土」を読んでいない私には何も書く資格はなさそうだが、石牟礼道子という桁外れの才能・感性・表現力をもった詩人・作家・批評家がいることはよくわかりました。それにつけても、水俣病の恐ろしさ。

『メルトダウン 連鎖の真相』

NHKスペシャル「メルトダウン」取材班著 講談社刊 2013年6月初版

本の重量にまず参ります。そして中身に参ります。朝日新聞社の「プロメテウスの罠」（何か報道関係の賞を貰った本）と並んで長く記憶さるべき貴重な記録でしょう。

『るり姉』

榎月美智子著 双葉文庫刊 2013年6月第18版

母は離婚後、精神病院の介護スタッフで昼・夜忙しく働き、3人の娘はそれぞれ学校で個性的な生き方をしている。母の妹がるり姉と呼ばれた叔母さんになるが、長女、母、次女、るり姉の亭主、がそれぞれ第4章までの四つつの章の主人公となって時間をさかのぼって行き、第5章は末娘が主人公になり、4年後にスリップして登場。素早い生きの良い会話、飽きさせない展開、現代庶民の生きざまを巧みに書いている。9か月で第18版というから、売れているんですね。

『怒らない禅の作法』

柊野俊明著 河出書房新社刊 2013年初版

新聞広告の著者の写真でその姿勢があまりにも素晴らしかったので、買っていただいたが、内容はまったく「お説もつとも」という以外どうしようもない正論、書評も感想もありません。柊野和尚のスカッと姿勢の良い写真の方が、説得力ある。それが見たかったがそれはない（本のカバーだったのかしらん）のが残念。

★)* ★)* ★)* ★)*

今月入った本から

『少年口伝隊』（井上ひさし著）と、『光のうつし絵』（朽木祥作）は、広島原爆を扱った物語です。あの夏から68年過ぎましたが、読んでみてください。

10月に文庫に新しく入った子どもの本

絵本

『**どんぐりむらのどんぐりえん**』(なかやみわ作 学研 2013) 『**ふうとはなとうし**』(いわむらかずお作 童心社 2010) ※14匹ネズミシリーズの作者の「絵本の丘美術館」に行ってきました。あたりには、ネズミやリスやそのほかの小動物がくらしていそうなところでした。『**ひさの星**』(斉藤隆介作 岩崎ちひろ絵 岩崎書店 80刷) 『**図書館に児童室ができた日**』(ジャン・ピンボロー文 テビー・アトウェル絵 張替恵子訳 徳間書店 2013)

読み物

『**おひめさまとカエルさん**』(ハーヴ&ケーテ・ツェマック文 マーゴット・ツェマック絵 福本友美子訳 岩波書店 2013) 『**ゼロくんのかち**』(ジャンニ・ロダーリ文 エレナ・テル・ヴェント絵 関口英子訳 岩波書店 2013) ※<岩波子どもの本>の新刊2冊、読んで上げれば幼い子どもも楽しめます。『**今野もんじろう**』(いわむらかずお作 理論社 2006) 『**ルドルフとスノーホワイト**』(斉藤洋作 講談社 2012) 『**少年口伝隊**』(井上ひさし著 講談社 2013) ※大人も読んでみて下さい。1945年8月原爆が落ちたあと、人々に情報を知らせてヒロシマの街を歩いた少年たちがいました。『**ミサゴのくる谷**』(ジル・ルイス作 さくまゆみこ訳 評論社 2013) 『**テラプト先生がいるから**』(ロブ・ブイエー作 西田佳子訳 静山社 2013) 『**杜子春・くもの糸**』(芥川龍之介著 偕成社文庫)

10月に文庫に新しく入った大人の本

読み物

『**北斗一ある殺人者の回心**』(石田衣良著 集英社 2012) 『**祈りの幕が下りる時**』(東野圭吾著 講談社 2013) 『**恋歌**』(朝井まかて著 講談社 2013) 『**小説集 黒田官兵衛**』(末國善己編 作品社 2013) 『**境界なき土地**』(ホセ・ドノソ著 寺尾隆吉訳 水声社 2013) 『**ハロルド・フライの思いもよらない巡礼の旅**』(レイチェル・ジョイス著 亀井よし子訳 講談社 2013) 『**いちばんここに似合う人**』(ミランダ・ジュライ著 岸本佐知子訳 新潮 2010) 『**美しい子ども**』(松家仁之編 新潮クレスト・ブックス) ※短篇小说ベスト・コレクション 『**恋しくて**』(村上春樹編訳 中央公論新社 2013)

エッセイ・ノンフィクションほか

『**彼方へ**』(丸谷才一著 河出書房新社 2013) ※復刻新版 『**戸越銀座でつかまえて**』(星野博美著 朝日新聞出版 2013) 『**私の本棚**』(新潮社編 新潮社) ※井上ひさし初め、様々なジャンルの人の本棚によせるメッセージ 『**原風景のなかへ**』(安野光雅著 山川出版社 2013) ※初の画文集 『**戦士の休息**』(落合博満著 岩波書店) ※落合もと監督の映画論(雑誌「熱風」スタジオ・ジブリ刊に連載に加筆・訂正) 『**日本兵を殺した父**』(デール・マハリッジ著 原書房 2013) ※ピューリッツァ賞受賞者 『**137億年の物語**』(クリストファー・ロイド著 文

藝春秋 2012) ※宇宙が始まってから今日までの全歴史(科学も文化も丸ごと歴史 はまってしまいそう！おとなも子どもも一人で、親子で読んでみよう、話し合ってみよう、私たちの生命世界を！ 文藝春秋が出しているのも面白い。)

詩・ことば

『**きつねうどん**』(阪田寛夫詩 童話屋 2011) 『**八木重吉 永遠の詩8**』(八木重吉詩 小学館 2011) 『**雨ニモマケズ**』(宮沢賢治詩 つかさおさむ絵 偕成社) 『**明日のカルタ**』(倉本美都留著 日本図書センター 2013) ※前記2冊は絵本ですが、詩・ことばのコーナーに入れます。親子で楽しんで下さい。

新書

『**笑って死にたい**』(遠藤周作著 河出書房新社 2013) 『**死後のプロデュース**』(金子稚子著 PHP新書 2013) 『**たしなみについて**』(白州正子著 川で書房新社)

文庫

『**清須会議**』(三谷幸喜著 幻冬舎文庫 2013) ※映画化 『**放課後はミステリーとともに**』(東川篤哉著 実業乃日本社文庫) 『**戦艦大和ノ最期**』(吉田満著 講談社文芸文庫 42刷) 『**男たちの大和 上・下**』(辺見じゅん著 ハルキ文庫 2004)

伊豆高原便り 番外編

西洋見聞録

8月6日から16日間 オーストリアの古都インスブルグに滞在しました。1964年 1976年2度にわたり、冬季オリンピックが開催された所です。14Cにハプスブルグ家の支配下に入り、アルプスの交通の要所でもあり、全盛期を迎えた街はウイーンに次ぐ第2の都と呼ばれたそうです。現在も、イン川に沿って当時の建物が残されています。南ドイツ 北イタリアに近く、列車・バスを利用して、日帰り、1泊で 美しい村や町、アルプスの山々まで行く事ができます。

その中で、私は、地名も知らなかったレツヒの地域住民の意識の高さに驚きました。

レツヒは、ヨーロッパの各国の王室も訪れる高級リゾート地で、インスブルグから1時半の所にあり、谷間に川が流れ、両側に木造のホテルや民家が建っています。窓という窓は すべて 木で作った植え込みにベゴニアとペチュニアが、こぼれんばかりに咲いていました。

人口1380の小さな村ですが、バイオマス地域暖房システムを採用し、主に木材チップと廃材を燃やして、95度の熱湯をホテルと各民家に送っています。1990年にスタートして 22億の予算の中国と州から 助成金がでましたが、住民の48%が株主になりうち22%を民営として運営しています。ここ5年は黒字で800万リットルの灯油を使わなくなりました。

寄贈

『心』(姜尚中著 集英社 2013) 『人間の運命 17 [別巻 1]愛と知と悲しみと』 『人間の運命 18[別巻 2]岡野喜太郎伝』(芹沢光治良著 勉誠出版 2013) 18巻 完結※Mさんありがとうございました! 『巴里に死す』(芹沢光治良著 2012)※中学生の時読んで理解できずに心に残った本、もう1度読んだら違う印象を持てるでしょうか。 『てくてく歩き 8 伊豆七島・小笠原』(ブルーガイド編集部編 実業乃日本社 06) ※近くて遠き伊豆の島々
『決戦 奥右筆秘帳』(上田秀人著 講談社文庫 2012) 『御広敷用人大奥記録 1 女の陥穽』(上田秀人著 光文社時代小説文庫 2013)
『刺客』 『火頭』 『兇刃』 『初陣』 『悲恋』 『遺恨』 『残夢』 『乱雲』 『追善』 『遠謀』 『無刀』 『烏鷲』 『初心』 『意地』(佐伯康秀著 祥伝社文庫)※密命シリーズ抜けが全部埋まりました。Uさん感謝です。

2013 秋に夜長のおはなし会 プログラムから

★詩の朗読

★ねことねずみのともぐらし (グリムの昔話)

★ラプンツェル (グリムの昔話)

★花さき山(斎藤隆介作)

★赤い靴 (アンデルセン作)

★冬のおとずれ

(杉みき子著『小さな雪の町の物語』より)

★朗読 夜の雪・三日の暮色

(藤沢周平作『日暮れ竹河岸』より)

又、観光客の車による公害を防ぐため、山頂のホテルへの道路は、山の中にトンネルを掘り地下から出入りをしています。建設費10億は、10年の話し合いの後、ホテルと住民が負担しました。

目先の利益や経済成長をもとめないで、自らの負担も辞さない住民の意識の高さに感動しました。

氷河が後退し大気汚染が問題となっている今世紀人の知恵と意志の強い決断力で、解決できる道もあるのかと、考えた旅でした。(アリッサム)

レツヒ (インスブルグ)

